

会報

2009(平成21年).10.1

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel:03-3222-4190 Fax:03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-3-9 第2太陽ビル301

発行人: 生井榮一

音楽教師養成コース開講式 歓迎の辞

張易県教文局長

皆様、こんにちは。日中国際教育交流協会・中国宋慶齡基金会による音楽教師育成コースが本日正式に開講となりました。私は易県人民政府を代表しまして来賓の方々に心からの歓迎の意を表し、長年我県の教育事業を支持して下さっています日本の友人たちに心からの感謝の意を述べさせていただきます。

易県は河北省西部にあり、28の郷鎮、469か所の行政村を束ねています。総人口56万、総面積2534平方キロメートル、面積の7割は山岳丘陵地帯で“七山一水二分田(注:7割が山、1割が河川、2割が水田の意)”と言われることもある、山岳農業地帯で知られる県です。また、河北省貧困扶助開発重点地区でもあります。県全体の各種学校は296か所、在校生は9万人余り、在職教員数は6180人です。

長年、わが県の教育事業は県政府の的確な指導と宋慶齡基金会・日本の友人の強い支持のもとで、“教育に優れた県”になるべく県民が満足できる教育を主旨として、思想を自由に開き、かつ大胆に革新することにより積極的に教育各方面に平等な発展を促進し、県の教育事業が全体的にはやく、健康的で、調和のとれたものとなるよう、平等に発展させることに成功しました。私たちは長年連続して省・市から“教育先進県”“道德教育第一群の県”“普通高校教育向上に優れた県”“職業教育に優れた県”“基礎教育を全面実施、教育の質を向上させた優良県”等の栄えある称号を授けられています。

そういった称号を得ることができたのも教職員のたゆまぬ努力の結果であり、宋慶齡基金会および日本の友人の支援のおかげでもあります。ありがとうございます。

心からの敬意と感謝の意を表現させていただきます。日本の方々が私たちの県にたくさんおいでになって、交流を深め、一緒に仕事ができんことを願います。ともに頑張り、中日両国の友情が末永く続かんことを！どうか来賓と友人方、先生方の仕事が順調でありますように。お身体が健康でありますように。今回の養成コースが円満に終わらんことを祈って！

中国教育国際交流協会から日本語教師派遣の要請

協会代表は、易県訪問に先立ち、8月26日北京で、中国教育国際交流協会と中国宋慶齡基金会を訪問しました。中国教育国際交流協会の林常務理事は、「中国は今日本語ブームです。退職者で日本語指導教師を派遣してください。」と一行に要請しました。また四川省彭州市丹景山镇初級中学からの地震に対する感謝状を渡されました。また、宋慶齡基金会では、馬基金部副処長から「西域や少数民族の教員養成にも力を入れている。これからも協力をお願いしたい。」との要望がありました。

協会と宋慶齡基金会の共同プロジェクト

河北省易県で初の電子ピアノ/講習会開催！

8月27-28日の両日、河北省易県教育文化局(教育委員会)は「音楽教師養成コース」を開講し、協会から前嶋理事、吉田評議員が出席しました。

協会は2007年以来、中国宋慶齡基金会と共同して、河北省易県の小中学校に机椅子・電子ピアノを寄贈し、教育支援を行って

きました。2008年10月には第14次訪中団が、易県小学校を訪問し、授業交流、教職員友好を深めてきました。2009年度はこれらの実績に基づ



易県音楽教師の研修風景

き、机椅子600セット、電子ピアノ40台を支援しました。前回と合わせ、ほぼこの地域の小学校に最低一台は配置されたこととなります。また今回、電子ピアノの研修を初めて実施しました。単なるハード面での支援にとどまらず、ソフトの面での支援は、中国の教育現場でも大いに歓迎されています。音楽教師は大変熱心に研修し、講師によれば、ほぼマスターしているということ

でした。休み時間に一行は、研修生代表と懇談し、今後もレベルアップをはかりたいなどの要望がありました。



研修生の意見を聞く前嶋理事

電子ピアノの購入に当たっては、ヤマハ労働組合(高井委員長)並びにヤマハ楽器のご協力をいただきました。

30年後の東アジアを見据えて



韓国で最も尊敬されている儒学者李退溪が開いた陶山書院
1000 ウォン札でもなじみが深い

第3期安東自由大学教育学部(団長 細井三重教組委員長)は9月6日、韓国金浦空港で文化教養学部と合流し、安東市国学文化会館に到着した。教育学部は日本中国国際教育交流協会の募集に応じて各県教組から参加した11名。文化教養学部からは、ロシア、台湾からの参加者、現地での協力者など加わって、総勢 36 名の参加で開催された。文化教養学部参加者は84歳を最高に平均年齢は70歳を有に超えている人生の達人が多い。到着日は韓国の著名な書道家から、書のパフォーマンスを受けた。

第1日目は、座学中心。韓国に在住して10年になる緒方恵子さんから、安東の伝統あるしきたりと、国際結婚の安東ならではの経験をうかがった。緒方さんは、第一回からの協力者で、安東市で初めて採用した外国人職員である。講座①は昨年に引き続き、韓国儒学の殿堂、成均館大学の李基東教授から、「仁」の講義。地上で二本に見える草木も根っこでは1本でつながっている。韓国ではこれを「一心」と呼び、汝と我とは個別的存在ではない、など興味ある講義であった。講座②は日本在住の中国人、周牧之東京経済大学から東アジアの市民社会の展望について講義があった。周氏はこれからの東アジア30年を展望してのダイナミックな話で、参加者の心を揺さぶった。周氏によれば、これからのアジアには、(1)想像力、(2)現実を認識する力、(3)政策の交流が必要だという。

第2日目は、陶山書院、民俗博物館、世界遺産に申請中の河回村などの安東で保存されている木造建築と、両班(やんばん)の歴史と民族について学習した。第3日目は、閉講式が行われ、恒例の修了証書が権重東安東自由大学名誉総長から全員に授与された。権総長は、「短い期間だったが情がある時間を共に過ごせて嬉しかった。巨木は一緒では育たない。離れて立って育ち、大きな建物の柱となる。」と第3期安東自由大学の終了に惜別の辞を贈った。「すべての教師は生徒であり、すべての生徒は教師である」という安東自由大学のモットーのもと、この大学の特徴である世代・地域を超えた交流は、昼夜を問わず、活発に行われた。



生井理事長直筆の色紙『共生力』を細井団長より贈呈

教育学部は、9月10日、国立ソウル教育大学付設初等学校を視察した。ソウル教育大学は、小学校教員養成大学で、初等学校は、教育実習や実験校として役割を担っている。児童は抽選で選抜される。障害児学級(特別支援学級)が1クラスあり、普通学級に籍を置き、必要に応じて個別学習が行われている。また、海外帰国児童のための帰国学級がある。クラス定数は30名で、男女各15名、1学年4学級で編成されている。昼食は食堂で、3時間目終了後は低学年、4時間目終了後は高学年が昼食をとることになっている。配膳は、保護者の責務で、輪番制で当たっているという。父母の参加はこのほかにもさまざま組織されている。

韓国では極めて恵まれている学校である。子どもたちは集中力があり、落ち着いた態度で来客にも接している。学校が特に力を入れているのは英語教育で、3年生から習熟度別クラスで行っている。また障害児学級の教材編成にも工夫が見られ、担当教師に教材開発の余裕も与えられている。なんとと言っても大学と運動場を共有できるのは壮観だった。

四川省彭州市丹景山鎮初級中学からの

感謝状

2008年5月12日14時28分、四川省汶川県でマグニチュード8.0級の大地震が発生、汶川および周辺地域に重大な経済損失をもたらし、多くの死傷者を出しました。学校教育が苦境に晒される中、日本中国国際教育交流協会様におかれましては遠路をものともせず彭州市の教育事業を援助して下さい非常に感謝しています。雪の中炭を送って下さるような皆様の愛情に、私たちはとても暖められ、あなた方の国際人道主義精神の発露を実感致しました。おかげで、学校は最短時間で授業を再開することができ、彭州市の教育系統も引き続き正常に運用することができるようになりました。(以下略)

☆☆ 協 会 ☆ 短 ☆ 信 ☆☆☆

8月24日～29日 音楽研修視察(中国河北省易県)並びに中国
教育国際交流協会・宋慶齡基金会訪問

9月5日～11日 第三期安東自由大学参加

9月16日 第3回常務理事会

9月29日 中国建国60周年記念式典(生井理事長参加)

10月9日 第4回制度検討委員会

11月5日 文部科学省実地検査